

岡 病 防 第 13 号  
平成 17 年 9 月 1 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第 2 号を下記のとおり発表したの送付します。

平成 17 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

平成 17 年 9 月 1 日  
岡 山 県

1. 病虫害名 アワダチソウゲンバイ *Corythucha marmorata* (Uhler)

2. 発生作物名 カンショ

3. 特殊報の内容 岡山県で初発生を確認

4. 初発生確認月日 平成 17 年 8 月 23 日

5. 初発生場所 岡山県南部

6. 発生面積 1 a

#### 8. 発生状況

岡山県南部の家庭菜園のカンショにおいて、葉にカスリ状の食害痕及びアワダチソウゲンバイの発生を確認した。また、本種の好適植物であるセイタカアワダチソウでの発生調査を行ったところ、県南部ではほとんどの地点で発生が確認された。

#### 9. 形態

成虫の体長は約 3 mm、前翅の周縁部と一部の翅脈上に顕著なトゲが列生し、前翅には多数の不定形の褐色斑がある。これらの特徴から他のゲンバウムシ類とは容易に識別できる。

#### 10. 発生生態及び被害

本種は北米からの侵入種で、平成 12 年 8 月に兵庫県西宮市で初発生が確認された。大阪府の調査によると、露地ギクでの本種の発生は 6～8 月であり、成虫の発生ピークは 7 月下旬と 8 月下旬、幼虫の発生ピークは 8 月上旬と下旬である。成虫は単独で、幼虫は集団で加害していることが多い。セイタカアワダチソウやブタクサなどのキク科雑草での成虫越冬が確認され

ており、これらの雑草で大発生すると、近隣のほ場に侵入する。

成幼虫の吸汁により、葉表に白色のカスリ状斑点が生じ、葉裏には黒色の粘液状の排泄物が付着する。被害が激しい場合は葉全体が白化し、株が枯死することもある。

## 11. 寄主作物

ソリダコ、キク、ヒマワリなどのキク科、カンショ、アメリカンブルーなどのヒルガオ科、ナス

## 12. 防除対策及び参考事項

- (1) ほ場周辺のセイトカアワダチソウやブタクサなどのキク科雑草は重要な発生源となるので、早期に除去する。
- (2) 現在のところ本種の登録薬剤はないが、大阪府の試験によると、スミチオン乳剤、モスピラン水溶剤、オルトラン水和剤、アドマイヤーフロアブル、コテツフロアブル、ベストガード水溶剤（以上、花き類に登録あり）、ラービンフロアブル（花き類とカンショに登録あり）などの効果が高いので、これらの殺虫剤を使用している場合は本種の発生は少ないと考えられる。
- (3) 定期的に殺虫剤散布を行っているほ場ではほとんど発生しないが、長期間散布していないほ場や家庭菜園では多発することがある。



アワダチソウゲンバイ成虫  
(体長約3mm)



アワダチソウゲンバイによる  
カンショの被害  
(葉表にカスリ状の白色斑点)

